

2018年9月定例自然観察会実施報告書

2018年9月10日

六甲山自然案内人の会 5班 濱田 誠一

I. 概要

日時：2018年9月9日（日）9:30～11:00

テーマ：初秋の逢山峡を歩こう

コース：有馬口駅～山王神社～合ノ本橋～東山橋手前（降雨のためひき返し）

参加者：ビジター2名、会員18名（うち5班15名）

〈9月2日の自主研修会の参加者は38名（うち5班16名）〉

説明リーダー：中塩、松本、林

II. 観察会内容

前日の夕刻に一旦解除された大雨警報がいつ再発表されるかわからないという不安定な天気の中、観察会に来られたビジターさんは3名だけ。ところが、直前に雨脚が強くなりビジターさんのうちのお一人がお帰りになられた。結局2名のビジターさんと観察会グッズを引き取りに来られた6班の会員さん3名、それに我が班15名の総勢20名で観察会が始まった。

スタート直後は雨もなく、スケジュール通りのペースで観察会は進行。今日がデビュー戦で緊張感丸出しの3名の講師も観察が進むにつれて徐々に堅さがほぐれて笑顔が出てくる余裕も。

田んぼのあぜ道ではアゼナ、タカサブロウ、ミゾカクシなどの草花、山王神社ではツガやアカガシ、ツクバネガシなどの大木、オガタマノキやシキミ、ヒサカキなどの常緑樹、アサクラザンショウやタラなどを観察。又、境内の周りに咲いていたツユクサについては、写真や図を用いての丁寧な説明にビジターさんも納得顔。

神社を出るところから再び雨が降り出すが、まだまだいける。用水路とフェンスに挟まれた場所では、秋を告げる数々の草花やマント群落を形成するクズなどのつる性植物を観察。ホドイモ、ガガイモ、センニンソウ、ノブドウ、ヌスビトハギ、ヒキオコシ、ヒメムカシヨモギ、オトコエシ、ヒヨドリバナ、アキノノゲシ……



逢山峡の入り口、『合ノ本橋』の分岐を過ぎたあたりから雨雲はだんだん厚く垂れこめてきたが、雨はまだ小降りなので観察続行。ヌルデやキクバヤマボクチ、ヨシノアザミの花が咲き始め、ジャケツイバラ、キブシ、サルトリイバラ、ヒョドリジョウゴ、ミヤマガマズミなどの果実も確認。 ～秋ですね～

スギ林に入り東山橋まであと少しのところまで雨脚が強くなり大雨警報も再発表されたことから、今日の観察会はここまで。ビジターさんの了解をもらい有馬口駅への帰路に就いた。



Ⅲ. 後記

秋雨前線に居座られて雨模様の中での観察会。出発直前までは開催自体を危ぶんだが、ビジターさん2名の参加があり観察会を敢行した。出発して1時間半ほど経過したところで、神戸市に大雨警報が再発表され雨脚も強くなったことから以降の観察を断念。予定の三分の一ほどの観察会となった。

今回初めてガイドとしてデビューした班員は、何回も下見を重ねて準備をしてきた。コース全体の案内ができなかったことは残念だったが、実際にビジターさんや他班の会員さんの前で話げできたことは大きな経験になったことだろう。

これで我が班の観察会は3回連続して雨のために中断。次回こそは雨のない自然観察会をやりたいものである。

以上